福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

発行
(財) 第五福竜丸平和協会
〒136-0081　東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話　03-3521-8494
FAX　03-3521-2900

展示館二十五周年によせて
福竜丸と平和創造の新たな役割

第五福竜丸平和協会会長　川崎昭一郎

第五福竜丸展示館は、本年六月十日に、開館二十五周年を迎えます。展示館を訪れる方々は、若い人々、年輩者、また、その職種もさまざまですが、私の実感では、来館者数におけるピークは中学三年生ではないかと思います。

二十五年前に中学三年生だった方々は、いま四十歳になっています。したがって、おおざっぱに言って、現在四十歳から十五歳までの人々が、展示館との接点をもつ人がいちばん多い世代、ある意味で「展示館第一世代」であると言えましょう。

ボランティアの話に聞き入る子どもたち

展示館第一世代は、第五福竜丸展示館を通して、核兵器の恐ろしさとその人類にとっての意味や平和の大切さを学んだ世代です。そして、この世代が二十一世紀においてもっとも活躍する人々であることは間違いありません。

私を含めてそれより高齢な世代には、ビキニ事件、さらには広島・長崎を直接に知っている人々もおり、また、第二次世界大戦の体験者もおります。

一方、現在十五歳以下の方々は、今後展示館を訪れ、第五福竜丸からのフレッシュで強烈な印象を心に刻みながら平和について学んでいく世代です。

このもっとも若い世代が、第五福竜丸展示館の管理・運営・案内業務に携わっている私どもにとって、いちばん大事な人々ではないかと思います。私たちの今後の創意・工夫で、この「第二世代」への展示館のインパクトを大きくすること、彼らの学習効果を高めるための有効な諸措置を講ずることは、きわめて大切なことです。

＊　＊

核兵器戦争を進めるものにとって、当初から、被ばく船第五福竜丸の存在自体が面白くなかったに違いありません。それは、水爆実験被害の確固とした証人であり、また、核兵器最先端技術の情報を内包していたからです。

事実、日本の科学者は、第五福竜丸の浴びた「死の灰」の分析から、実験実施者側から何らのデータも与えられないままで、使われた水爆の仕組を解明し、それが放射能の点できわめて汚い爆弾であることをつき止めたのでした。

この第五福竜丸の永久保存を実現するために払われた先輩たちの並々ならぬ苦労と努力が偲ばれます。

第五福竜丸は、二十世紀、「戦争の世代」においては、核実験被害の告発者でしたが、二十一世紀においては、平和創造の面での役割をいっそう強めることが期待されています。

二十一世紀を核兵器のない世界へ、平和の行動がスタート

国民平和大行進出発

五月六日、夏の広島へむけて原水爆禁止二〇〇一年国民平和大行進が展示館前の広場から出発しました（日本原水協など同実行委員会）。行進は今年で四四回目、東京―広島の幹線コースをはじめ、北海道―東京、四国、沖縄―長崎など全国十一のコースで歩き継がれ、核兵器廃絶と今年の原水爆禁止世界大会の成功を訴えます。

出発集会には八〇〇人が参加、河井智康実行委員会代表の開会挨拶につづき日本被団協をはじめ各界から激励の言葉が寄せられました。第五福竜丸平和協会からは、川崎昭一郎会長が連帯の挨拶をおこない、核兵器廃絶を訴え三ヶ月余りとりくまれる平和行進を激励しました。

日本山妙法寺の平和祈念行脚

五月十日朝、日本山妙法寺の平和祈念行脚が広島へむけて出発しました。これは三月一日の焼津へむけての行脚と八月六日の広島へむけて年に二回おこなわれている行動です。

出発式は、信徒四十名余りと激励の各界代表が参加、武田隆雄上人が平和の祈りと行動をよびかけ、広島までの通し行進者が決意の挨拶をしました。

平和協会からは、川崎会長が激励挨拶し、原水禁国民会議や日本原水協などの代表が連帯の挨拶をおこないました。

反核平和の火リレー

五月二十八日、第十三回反核平和の火リレー（日本青年学生平和友好祭東京実行委員会主催）が展示館前を出発しました。

リレーは、原爆の火をトーチに点火してかかげ、東京都平和記念館の実現、非核平和都市宣言、平和条例の制定を求め、都内を引き継いで、六月八日に福生市の在日米軍横田基地に終結します。出発集会では、平和協会の川崎会長が挨拶しました。

ビデオ／DVD映像で「第五福竜丸の現在」撮影

新藤兼人監督作品の映画「第五福竜丸」がこのたびDVD（デジタル・ビデオ・ディスク＝CD形式の映像）で発売されることになりました。これは、映像プロダクションのアスミックKKが製作したもので、新藤作品の映画の代表作二十二本がDVD化して販売されます。

今回の「第五福竜丸」のDVDには、映像資料として現在の福竜丸および展示館が映像構成で収録されることになり、九日に撮影がおこなわれました。

映画「第五福竜丸」が製作されたのは、一九五八年、久保山愛吉役に宇野重吉さん、夫人すず役は乙羽信子さんが出演し、乗組員の船での生活や水爆実験被災の模様、焼津の市民の動向や全国の事件にたいする驚きがリアルなタッチで描かれており、事件をビジュアルにイメージ化するうえで、最良の映像作品といえます。

今回の企画にあたり、事件が四七年前のことでありながら漁船福竜丸がこんにちも夢の島にあることを知らせてはどうか、との協会からの提案により映像資料がつけられることになりました。展示館の紹介としても活用できるものです。DVDは、七月から展示館でも委託販売する予定です。

―＊―――＊―――＊―

五月の入館者（5／29迄）

◇入館者　一四、九七七人
◇団体見学　一一六（うち小学校21、中学校66、高校5）

第五福竜丸展示館開館二五周年

座談会　船を守り保存した頃のとりくみから

出席―三井周（元東建従江東支部書記長、第五福竜丸平和協会評議員）、深井平八郎（元石川島播磨重工平和委員会）青木佳子（元小学校教諭）、山村茂雄（司会、平和協会理事）

山村　展示館が開館してから六月十日で二五年になります。きょうは、第五福竜丸が廃船となり夢の島で「発見」され保存の運動が起こった頃、地元江東区で船を守ってくださった中心的な方々に集まっていただきました。

ご出席のお三方と仕事の都合でお見えいただけない若島幸作さんは、江東の福竜丸「三羽鳥」と「一姫」と言われていました。

草の根から起こった船を守るとりくみ

三井　私は江東区深川で建築の組合の専従の書記長をしていました。一九六八年三月二日の新聞「赤旗」の報道は直接は見ていませんでしたが、電話で、新聞に出ていたから現地に行ってみてほしいと連絡を受けた。

三井さん

今の夢の島大橋になる前の木の橋の手前に車を止め、歩いて渡りました。そこはゴミの山でした。意外と小さな船で、傾いていました。それからは、毎日のように船を見にいきましたよ。

青木　江東区の枝川小学校に勤務していたのですが、六一年に江東教師平和の会をつくり副会長をしていました。会長の堀田尊生さんから電話があり、自転車で見にいきました。その後も何度か見に行き、教員たちにもよびかけました。

深井さん

深井　石川島播磨重工に勤めていました。六四年に職場平和委員会をつくり、会社は兵器生産などもありましたから…。三月二日の記事を見て、仲間三人で行きました。辺りはドロンコで草も木も無かったんです。船は左舷が傾いて、海には廃船となった木造船の竜骨なども散らばり船の墓場のような雰囲気でした。

船はいくたびも沈みそうになった

ここへ沈められそうだと言うことなので、仮に保存できなくても、例え板切れ一枚でも残すべきだと思いました。

福竜丸が岸から離れたとき江東区役所の若島さんたちとボートで周りを回って見たりしました。近くにいた島田のとっちゃん（轍之助さん）や大工の山口さんが船に入って直してくれたり排水したりしてたんとか沈没をまぬがれるように頑張ってくれました。

青木　区職に平和の会ができ、若島さんはその代表として出ていました。まだ、「はやぶさ丸」という名でしたので、早く福竜丸に戻さなくっちゃとか、保存運動を江東の平和運動のメインにしようと言い出して、一日・六日・九日の日には保存の募金や署名を訴える運動をしました。堀田尊生さんが写真を撮って、「ゴミの山の中で福竜丸はこういう状態です」と三枚一組にして売ったり、パネルにして保存をよびかけました。

バッチは、若島さんが言いだして、デザインは深井さんが、福竜丸はビキニ水爆被ばくの生き証人ということを表すために、船が海に浮かんでいる、水色と白の象徴的なバッチになりました。

一九七三年にフランスがムルロワで核実験をしたとき、福竜丸の横のゴミの山のとこにテントを張って、三羽烏だけでなく被爆者など泊まり込んだんです

船の横に立てられた保存よびかけ看板

広範な呼びかけで全国の運動へ

山村　地元の皆さんの取り組みがすすみますが、全国的にも保存の運動が始まりました。いろいろな市民団体、原水協や原水禁もそうだけれど、学者文化人の方々も。三月十三日（六八年）には、東京・銀座の数寄屋橋で保存募金行動が行われました。都民の反響が大きくて、たいへんなものでした。

青木さん

青木　中央でもやっているから、地元は地元でと深川八幡や不動さまの縁日までバッチを売ったりメーデーで宣伝したりしました。六八年八月の第十四回世界大会でも訴えました。

山村　静岡・焼津での3・1集会で江東・港湾労働者から保存の発言がなされます。これが報道され、さらに「沈めてよいか第五福竜丸」という投書（武藤宏一さん）が世論を高めました。

江東選出の都議の高木和夫さんが予算特別委員会で美濃部都知事に質問するのですが、これは地元江東のとりくみを背景にしてのことだと思います。美濃部さんは個人として協力すると答えたと記録されています。

三月末には福竜丸を業者から買い取り、福竜丸の前にこの船がビキニの被災船であること、保存運動がすすんでいることを知らせる立て看板が立てられます。また四月には「第五福竜丸を見る都民の集い」などと、動きが素早かったですね。その年の八月のおわり台風がきて、この時の徹夜の監視は皆さんがやってくださった。

三井　高木源太郎さんがパンツひとつで、関東ゴムの労働者が持ってきた古タイヤで岸壁にぶつからないように船にくくりつけた。海水が入り沈みそうになり水をかいだすために区役所からポンプを借りて、処理をしたりね。やがて監視小屋ができて、島田さんたちが、毎日見回ってくれました。なにかあると「三井さんまた船が…」と電話がきて、それで私が車で飛んでいく…。

青木　保存運動がほんの二、三人の人じゃなくて、私たちが訴えるとパーと広がって、党派を超えてとりくまれたと思います。

山村　六九年の四月十日に美濃部亮吉さんや中野好夫さん、畑中政春さん、森滝市郎さん、三宅泰雄さん、鈴木正久さん、壬生照順さん、檜山義夫さんの八氏による保存のよびかけがだされ、七月に保存委員会が発足します。

山村さん

保存運動の実務は、広田重道さんなどが中心にすわってすすめることになったが、なかなか困難もありました。

三井　保存運動がうまくいくのかという不安はありました。亀戸駅で一人で1、6、9の日に保存をよびかける行動をしたこともありました。

しかし三宅先生や美濃部都知事も加わり、よびかけがだされたことは大きな励みになりました。全国の運動になると思いました。バトンタッチするまでは地元ががんばらなくちゃと思いました。

深井　とにかく草の根の力を期待した。江東区発信で全国に広げていこうという意気込みはありましたね。

青木　東京都が建てるとはっきり決まるまでが本当に大変でしたね。

21世紀の展示館に期待をこめて

三井　とにかく形の見えるものとして残すことができた。この小さな木造船がなかったら、核兵器をなくそうという運動の広がりもちがったものになったかと思います。大きな役割を担った。無数の人々のかかわりがある。これを心に留めておきたい。

青木　たくさんの人の支えで展示館が出来たことを館のなかに残しておきたいと思います。広島には原爆ドームがある、東京には第五福竜丸がある。船があるからこそ語ることができるものがたくさんあります。とくにビキニ事件を知らない世代が多数になっているいまこそ展示館の意義は新たなものがあると思います。

深井　第五福竜丸を残したことは、歴史の証拠を残すことで、核兵器を廃絶することができた後も人類の教訓として残すべきものです。船のことですから七つの海を渡って世界に広めてほしいですね。

山村　ビキニ事件についての資料をさらに収集し、保存運動と展示館完成までの経過も伝えることが大切です。今日は貴重なお話ありがとうございました。

（文責・編集部）